

授業科目名	漢文学 (2100258)		
時間割名	漢文学 (61101)		
時間割担当	山田明広		
実施期	前期	単位数	2 選択
曜日・時限	土・1		

授業の目標・概要

「漢文学入門」「漢文学」を踏まえて、漢文資料を訓読の方法で読み、意味を理解するために必要な力を向上させる。漢文学習に有効な工具類を自在に運用できるようにする。テキストには難易度の高い散文作品を選ぶ。抽象的、思想的な内容をも含んだ文章でも主体的に論旨を追って読み進めることができる学力の取得を目指す。具体的には、唐宋時代の名文家から韓愈、柳宗元、歐陽修、蘇軾を選び、彼らが記した散文を精読する。『古文真宝』に掲載されている作品からいくつか選択して教材とし、漢文力のいっそうのレベルアップをはかる。

学習の到達目標

本授業の目標は以下の3点である。「漢文学入門」期よりも高度な漢字力を身につける。抽象的、思想的な内容をも含む、やや難解な漢文を、語法に基づきボトムアップ的に読めるようになる。室町期より日本でよく読まれた唐宋の名文に接し、国語の中に漢文が含まれる意義を体得する。

授業方法・形式

テキストをもとに講義を行う。受講生は、第一回目に指示するノートの取り方に従って、教員の伝える漢文についての情報を書き留めなければならない。

授業計画

第1回 オリエンテーション 授業の到達目標、進め方、授業計画、評価の仕方を理解する。漢文のノートの取り方、辞書・工具書について学び、予習の仕方を身につける。

第2回 『古文真宝』について 授業の前半は『古文真宝』の特色、『古文真宝』の諸本、日本での受容、参考文献について、多角的に学ぶ。授業の後半は、韓愈とその文学の特色について学ぶ。

第3回 韓愈「雑説」(1)「世有伯樂」から「不以千里称也」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。文体の特色について理解し、「古文」とは何かを学ぶ。

第4回 韓愈「雑説」(2)「馬之千里者」から「其真不識馬耶」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。授業の後半は、柳宗元とその文学の特色について学ぶ。

第5回 柳宗元「種樹郭? ? 伝」(1)「郭? ? 不知」から「莫能如也」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。植木屋の郭さんの人物像を読み取る。

第6回 柳宗元「種樹郭? ? 伝」(2)「有問之對曰」から「吾又何能為哉」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。植木屋の郭さんの樹木栽培法を読み取る。

第7回 柳宗元「種樹郭? ? 伝」(3)「問者曰以子之道」から「以為官戒」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。植木屋の郭さんの政治批判を読み取る。

第8回 確認チェックテスト 授業の前半は、第3回から第7回までに学んだ漢文について、その理解度を問うテストを実施。授業の後半は、歐陽修・蘇軾とその文学の特色について理解を深める。

第9回 歐陽修「醉翁亭記」(1)「環? 皆山也」から「山水之樂、得心而寓之酒也」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。醉翁亭と名付けたのはだれか、醉翁とはだれかを読み取る。

第10回 歐陽修「醉翁亭記」(2)「若夫日出而林霏開」から「往來而不絕者、? 人遊也」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。描かれた風景を理解し、山遊びの人々の行動を読み取る。

第11回 歐陽修「醉翁亭記」(3)「臨溪而漁溪深而魚肥」から「廬陵歐陽修也」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。文体の特色をつかみ、歐陽修の到達した境地を読み取る。

成績評価の基準

授業計画

第12回 蘇軾「前赤壁賦」(1)「壬戌之秋、七月眺望」から「望美人兮天一方」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を理解する。典故を踏まえて、語彙の意味をつかむ。

第13回 蘇軾「前赤壁賦」(2)「客有吹洞簫者」から「託遺響於悲風」まで、訓読と現代日本語訳により、内容を把握する。「客」の主張を読み取る。『三国志演義』との共通点を知る。

第14回 蘇軾「前赤壁賦」(3)「蘇子曰」から「不知東方之既白」までの内容を、訓読と現代日本語訳により理解する。蘇子(蘇軾)の主張を読み取り、彼の人生観についての理解を深める。

第15回 復習 授業の前半は、「説」、「伝」、「記」、「賦」の違いを学ぶ。授業の後半は、学習内容を振り返る。質疑応答によって、内容についての理解をさらに深め、学期末テストの準備とする。

成績評価の基準

毎回の授業でワークシートを提出。授業の理解度を問う(30%)。学期途中に確認チェックテストを実施し、セメスター前半の理解度を問う(20%)。学期末テストで、セメスター後半の理解度と、総合的な漢文読解能力を問う(50%)。出席回数が授業全体の2/3未満である場合には不可0点とする。

授業時間外の課題

予習：教材のうち白文をノートに書き込んでおく。書き下し文や日本語訳も事前に書き込んでおくのがのぞましい。復習：毎回の授業終了後、ノートを読み直す。声に出して読むのがのぞましい。

メッセージ

教材・教科書

- ・テキストは配布プリントを使用

参考書

- ・参考書 興膳宏『中国名文選』（岩波書店）、佐藤保・和泉新『古文真宝』（学習研究社）、星川清孝『古文真宝（後集）』（明治書院）。